おうとう

佐藤錦	発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
	3.29	4.21	4.21	4.26	5.9	6.20

平年値（東根市東根）北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度（薬液100ℓ当たり）		農薬使用基準 収穫前使用時期	農薬使用基準 総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前日数　総使用回数）を表す	散布日（月／日）	使用薬剤	使用濃度
休眠期（3月末迄）［カイガラムシ重点防除］［ハダニ重点防除］	カイガラムシ類 （コスカシバ） （越冬病害虫）	水 1．ハーベストオイル 2．アプロードフロアブル	（98ℓ） 50倍（2ℓ） 1,000倍（100cc）	発芽前 7日前まで	－ 2回以内	400ℓ	1．天気のよい温暖な日を選び薬剤をむらのないように散布するとともに、薬液のかかりやすい樹形に整理する。（手散布による補助散布） 2．コスカシバ対策　フェニックスフロアブル500倍（開花前まで1回）を樹幹散布する。 3．樹脂細菌病対策　石灰硫黄合剤10倍（発芽前）を樹幹散布する。	／		
開花1日前（風船状）［灰星病重点防除］	灰星病 幼果菌核病 炭そ病 ハマキムシ類	1．トレノックスフロアブル 2．バイオマックスDF	500倍（200cc） 2,000倍（50g）	21日前まで 前日まで	5回以内 －	400ℓ	1．この回以降、殺虫剤解禁までは訪花昆虫への影響を少なくするため早朝散布に努め、巣群に直接薬液がかからないようにする。	／		
状況五分咲［灰星病重点防除］	幼果菌核病 せん孔病 灰星病	1．トップジンM水和剤	1,500倍（66.6g）	14日前まで	3回以内	600ℓ	1．山手や開花期不順天候時に散布する。 2．展着剤は加用しない。	／		
満開期（八分咲）［灰星病重点防除］	灰星病 幼果菌核病 褐色せん孔病 ハマキムシ類	1．ファンタジスタ顆粒水和剤 2．バイオマックスDF	3,000倍（33.3g） 2,000倍（50g）	前日まで 前日まで	3回以内 －	600ℓ		／		
満開10日後［灰星病重点防除］	灰星病 炭そ病 褐色せん孔病 （コアオカスミカメ）	1．スミレックス水和剤 2．オーソサイド水和剤80	1,500倍（66.6g） 800倍（125g）	14日前まで 3日前まで	3回以内 5回以内	600ℓ	1．花ぐされや発病果は伝染源になるので、見つけ次第摘みとり埋設する。 2．**コアオカスミカメによる被害が心配される場合、ウララDF2,000倍（前日まで、2回以内）を加用する。ただしポリネーション（交配用ミツバチ）回収後とする。**	／		
状況5月中～下旬	コスカシバ	スカシバコンL	10a当たり40～100本を設置	広域的に設置する			1．コスカシバの発生が多い園では設置する。	／		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
殺虫剤解禁後［カメムシ重点防除］	灰星病 炭そ病 褐色せん孔病 ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ	1．オーソサイド水和剤80 2．アグロスリン水和剤※1	800倍（125g） 1,000倍（100g）	3日前まで 3日前まで	5回以内 2回以内	600ℓ		／		
5月下旬［ウメシロカイガラムシ重点防除］	灰星病 カイガラムシ類 （ハダニ類）	1．スコア顆粒水和剤 2．トランスフォームフロアブル	2,000倍（50g） 2,000倍（50cc）	前日まで 3日前まで	3回以内 3回以内	600ℓ	1．この回以降収穫を終えるまで展着剤を加用しない。 2．**早生種混植園ではトランスフォームフロアブルに替えてモスピラン顆粒水溶剤　2,000倍（前日まで、1回）を散布する。**	／		
	生育が前進している場合には、5月下旬にダニオーテフロアブルを混用する									
6月上旬［灰星病重点防除］	灰星病 カメムシ類 ショウジョウバエ類 ハダニ類	1．パレード15フロアブル 2．テルスターフロアブル※1 3．ダニオーテフロアブル	2,000倍（50cc） 3,000倍（33.3cc） 2,000倍（50cc）	前日まで 前日まで 前日まで	2回以内 2回以内 1回	500ℓ	1．雨よけ被覆後はハダニが多くなりやすいので、草刈り3～4日後にていねいに散布する。 2．5月下旬にダニオーテフロアブルを使用した場合は使用しない。	／		
6月中旬［灰星病重点防除］	灰星病 炭そ病 黒斑病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ	1．ナリアWDG 2．エクシレルSE	2,000倍（50g） 2,500倍（40cc）	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1．ナリアWDGはル レクチエの果実や、ビオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。 2．収穫の終わった早生品種にも散布すること。	／		
6月下旬［灰星病重点防除］	灰星病・黒斑病 ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ	1．オンリーワンフロアブル 2．スカウトフロアブル※1	2,000倍（50cc） 3,000倍（33.3cc）	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ		／		
晩生種中心 7月上旬	灰星病 オウトウショウジョウバエ	1．カナメフロアブル 2．テッパン液剤	4,000倍（25cc） 2,000倍（50cc）	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1．**この回以降、収穫が終わらない場合、オウトウショウジョウバエ対策として、ディアナWDG 1万倍（前日まで、2回以内）を散布する。**	／		
収穫直後［褐色せん孔病重点防除］［ハダニ重点防除］	せん孔病 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ アメリカシロヒトリ ハダニ類	1．アビオンE（展着剤） 2．オキシラン水和剤 3．ダイアジノン水和剤34 4．カネマイトフロアブル	1,000倍（100cc） 600倍（166.6g） 1,000倍（100g） 1,000倍（100cc）	－ 収穫終了後～落葉期まで 14日前まで 7日前まで	－ 3回以内 2回以内 1回	600ℓ	1．収穫の終わっていないおうとう、ももに飛散させない。	／		
前回散布14日以内（7月中～下旬）［褐色せん孔病重点防除］	せん孔病 （ハダニ類）	1．アビオンE（展着剤） 2．オキシラン水和剤	1,000倍（100cc） 600倍（166.6g）	－ 収穫終了後～落葉期まで	－ 3回以内	600ℓ	1．ハダニの発生がみられる場合は、アカリタッチ乳剤3,000倍（前日まで）を5～7日間隔で2回散布する。	／		
8月上～中旬［ウメシロカイガラムシ重点防除］［もも隣接園］	せん孔病 カイガラムシ類幼虫 （ハダニ類）	1．ドライバー（展着剤） 2．オキシラン水和剤 3．アプロードフロアブル	1,000倍（100cc） 600倍（166.6g） 1,000倍（100cc）	－ 収穫終了後～落葉期まで 7日前まで	－ 3回以内 2回以内	600ℓ	1．他作目に飛散させない。 2．ハダニ類が見られる場合はコロマイト乳剤1,000倍（7日前まで、1回）を加用散布する。ももの登録は収穫7日前までなので、収穫期のももに飛散させない。 3．降雨が多い場合には、8月下旬にトレノックスフロアブル500倍（21日前まで、5回以内）を他樹種に飛散しないように散布する。	／		
	せん孔病 灰星病 ウメシロカイガラムシ	1．ドライバー（展着剤） 2．トップジンM水和剤 3．ダイアジノン水和剤34	1,000倍（100cc） 1,500倍（66.6g） 1,000倍（100g）	－ 14日前まで 14日前まで	－ 3回以内 2回以内					
9月上～中旬	褐色せん孔病	1．Zボルドー 2．クレフノン	500倍（200g） 100倍（1kg）	発病前～発病初期 －	－ －	600ℓ	1．Zボルドーには薬害防止のため必ずクレフノン100倍を加用する。 2．他樹種への飛散に注意する。	／		
状況休眠期	コスカシバ	1．ガットキラー乳剤	100倍（1ℓ）	休眠期（落葉後～萌芽前）	1回	400ℓ				
落葉後	越冬病害虫 樹脂細菌病	1．石灰硫黄合剤 又は、 ＩＣボルドー66Ｄ	10倍（10ℓ） 40倍（2.5kg）	発芽前 発病前～発病初期	－ －	400ℓ	1．野そ被害が心配される園では食害忌避としてフジワン粒剤200g/樹（根雪前、2回以内）を使用する。	／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。
オーソサイド水和剤80、オキシラン水和剤などキャプタンを含む剤の総使用回数は合計で5回以内である。
オキシラン水和剤など有機銅を含む農薬の総使用回数は合計で3回以内である。
※1　合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。